

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 27 年 8 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 27 年 4 月～6 月期の実績および平成 27 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	21 社	70.0%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	14 社	46.6%
建設業部会	30 社	21 社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	18 社	60.0%
合 計	150 社	93 件	62.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

―業況は大幅改善。しかし、次期は前回値まで悪化の見込み―

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成27年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲7.5**と前回調査時の▲18.2より**10.7ポイントの回復**という結果になりました。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値▲22.2→今期**23.8**]、水産業[前年DI値▲21.7→今期**▲26.3**]、機械工業[前年DI値▲10.5→今期**▲20.0**]、建設業[前年DI値4.8→今期**▲15.8**]、観光・サービス・諸業[前年DI値▲33.3→今期**▲5.3**]となりました。

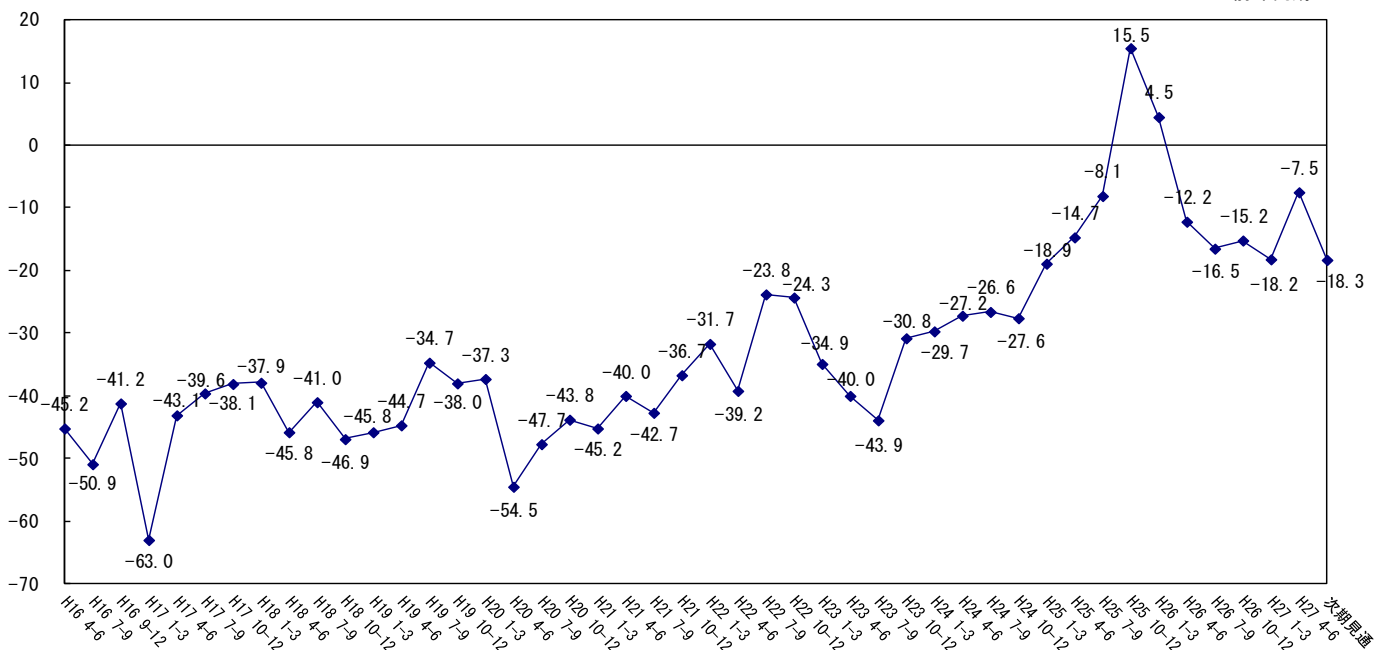
これまで、他の業種に比べ好況感が見えにくかった商業・食品業と季節により変動の大きかった観光サービス・諸業が今期大きく改善しました。新年度に入り新生活準備や歓迎会等に伴う消費が活発になった事に加え、6月1日から発売を開始した20%プレミアム付き「もんべつ地域活性商品券」により個人消費は少なからず刺激されたものと思われます。一方、最も業況が悪かったのが水産業で、依然としてカニの輸入が減少する中、今冬の低気圧の影響により主力であるホタテの漁場が甚大な被害を受け、水産加工業者は原料不足と仕入高により経営状況は厳しいとの声が寄せられております。

**来期(平成27年7月～9月)**については、今期と比べて**業況判断DIが10.8ポイント悪化**するとの予測となっています。建設業と観光サービス業が**▲31.6**と全業種の中で最も低い値を示し、共に今期よりも大きく悪化する予測となっております。しかしながら、来期は夏の観光シーズン、建設業は新聞報道によると一般建築も順調に推移していることから、上方修正されることに期待しています。一方、繁忙期を迎える水産業と各業種の資材の取扱や整備を行う機械工業は回復の見通しとなっており、今後の動向については注視していきたいと思っております。

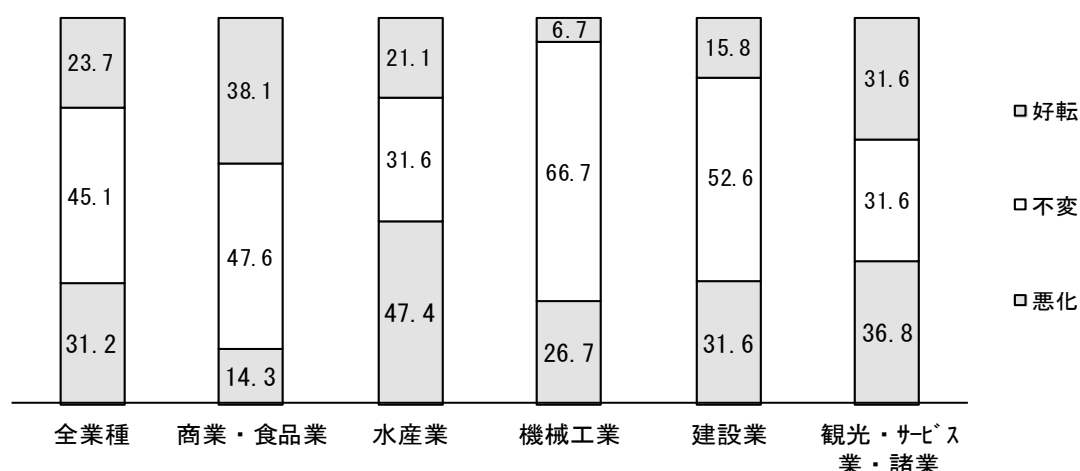
### 紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転―悪化)

前年同期比



### 今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に依然として需要の停滞と原材料等の価格上昇を訴える声が多く、特に水産業部会では、今年1～3月に発生したの低気圧によりホタテの漁場に甚大な被害を受けたことから、原料不足と原材料単価の上昇に苦慮しているとの声が寄せられています。また、人手不足を訴える声が多く、設備投資については、時期未定の実施予定も含め、例年順調に推移する動きとなっております。

### ■部会別の動向

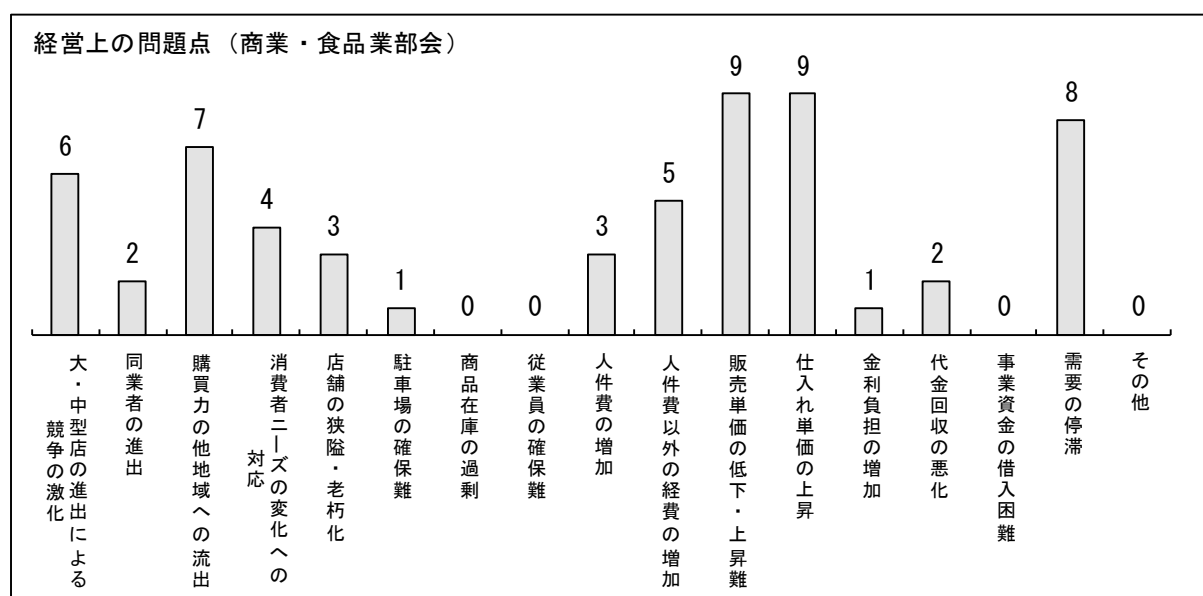
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）23.8（前年DI値▲22.2、来期見通し▲4.8）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期より46ポイントと大幅回復となっております。要因としては、6月1日から発売された「もんべつ地域活性化商品券」により、客単価が上がっているとの声も寄せられており、消費マインドが刺激されたものと思われます。次期は▲4.8と再び悪化の見通しとなっております、商品券事業が落ち着きを見せるためと考えられます。

経営上の問題点としては「販売単価の低下・上昇難」「仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

#### 《業界の問題点等》

- ・顧客数の減少、販売競争の激化。（燃料小売）
- ・入札でその期の売上が決まるので、好調・不調の差が大きい。（食料品小売）



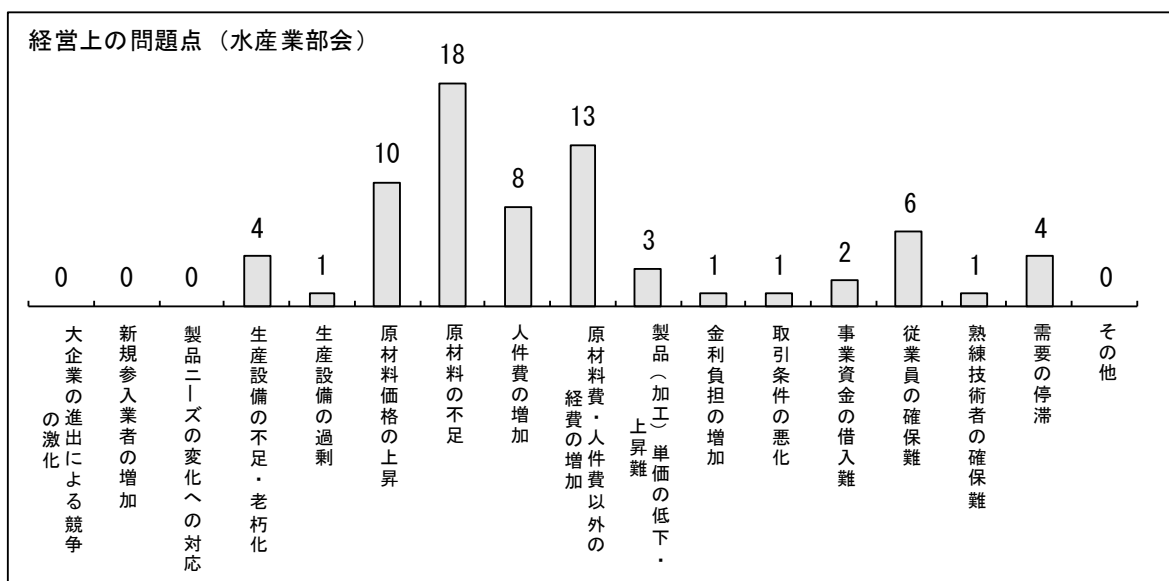
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲26.3（前年DI値▲21.7、来期見通し▲10.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、▲26.3と前年よりも悪化となりました。今年の冬に発生した低気圧の影響でホタテの漁場が甚大な被害を受け、最盛期となる来期見通しも▲10.5ポイントと大きな回復には至らず、今後3年間は更に慎重な見方が続くと思われます。輸入活カニの大幅な減少に加え、これまで安定供給とされてきたホタテも水揚げが2割減少する見込みから、市内加工場への配分も減少、北海道もホタテ被害に関しては災害融資の対象とする異例の対応を取るなど、事態は深刻化しております。

経営上の問題点としては「原材料の不足」「原材料費・人件費以外の経費の増加」「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・水産物の水揚場で工場が稼働出来ず、固定費が圧迫している。（水産加工）
- ・従業員の確保難が一番大変です。原料の安定確保難。（水産加工）

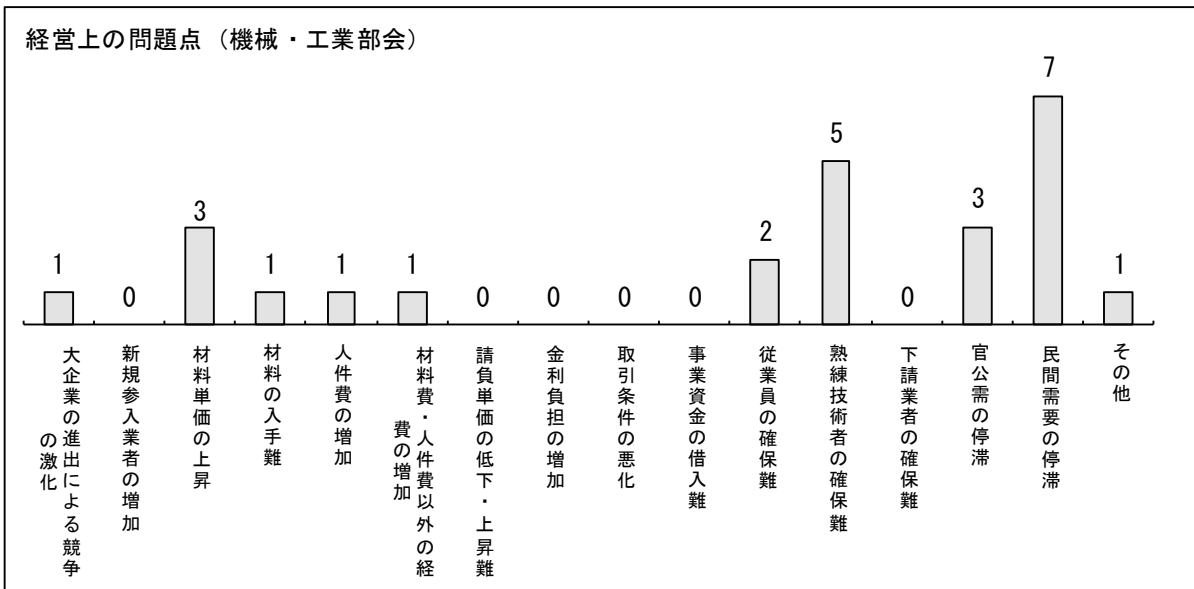


【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲20.0（前年DI値10.5、来期見通し▲13.3）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値と比べると30.5ポイントの大幅な悪化となりましたが、前年は大規模な公共工事により、付随する重機リースや整備等が好調でしたが、工事終了による落ち着きが機械工業にも波及されたものと思われます。しかしながら、昨年同様に機械修理、購入が順調に推移しているとの声もあり、各業種が繁忙期となる次期見通しは、今期よりも6.7ポイント回復するとの予想となっております。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・問題点多し（建具製造）
- ・設備の不足及び老朽化（鉄工）



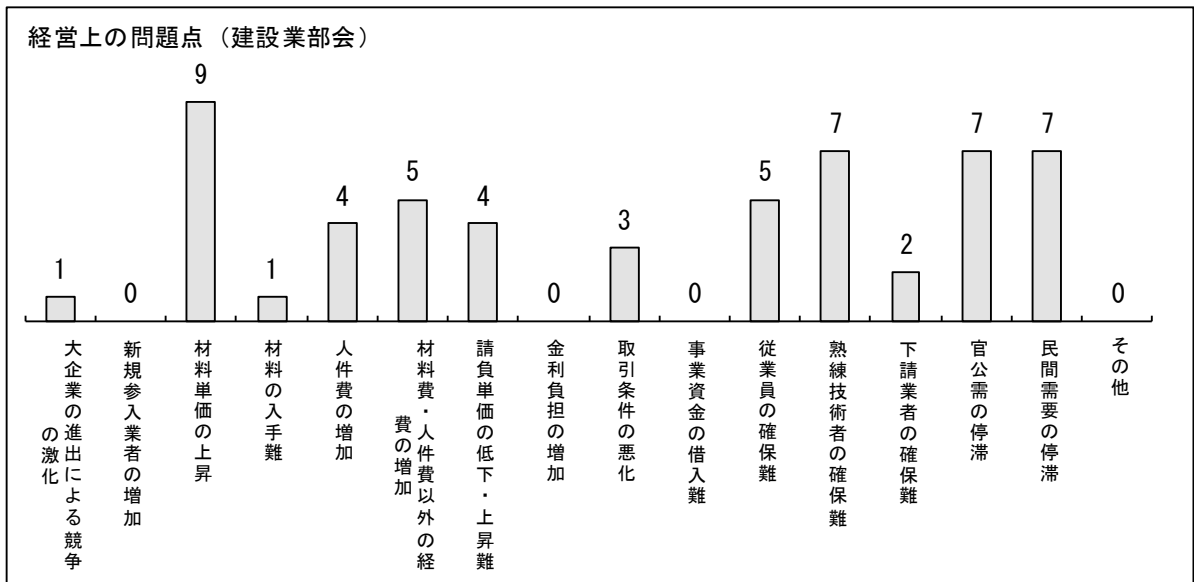
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲15.8（前年DI値4.8、来期見通し▲31.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値4.8から20.6ポイントの悪化です。昨年で大規模工事が一段落したことによる反動と、円安による建築資材の単価上昇に加え、官公・民間の需要停滞が要因と考えられます。しかしながら、住宅建築も順調に推移しているとの報道や、既存店舗の改装工事、それらに係る内装、管工事等で受注、下請は順調との声も寄せられています。来期は繁忙期に入るにも係わらず、更に大幅な悪化の見通しとなっております。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「熟練技術者の確保難」「官公需・民間需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・これ以上の消費税upは如何なものか！（管工事）



【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲5.3（前年DI値▲33.3、来期見通し▲31.6）〕

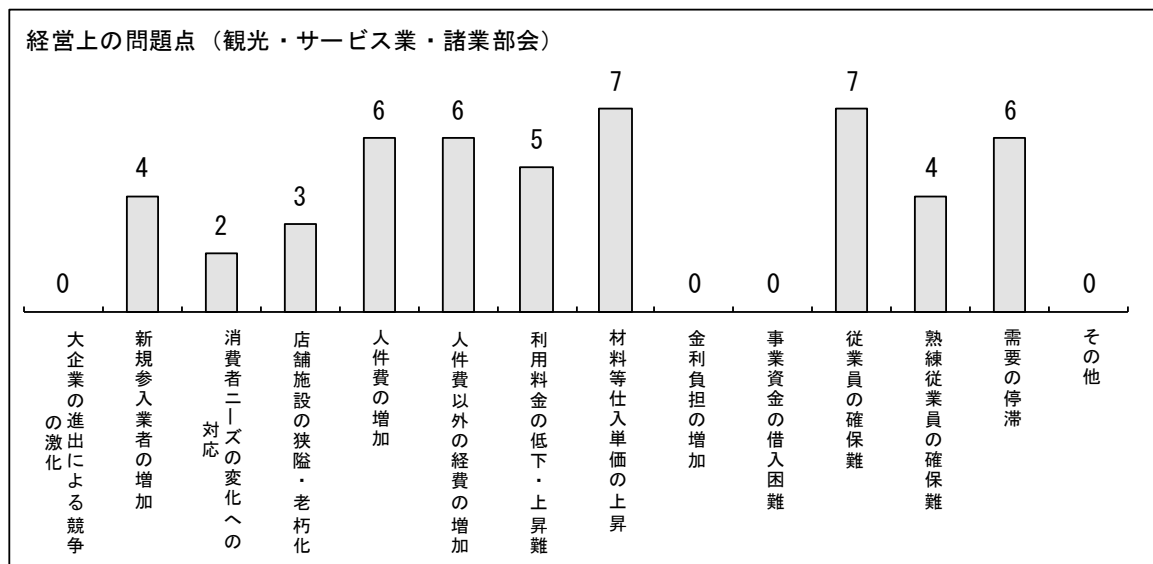
業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値よりも28ポイントの大幅回復となりました。昨年は消費税増税により、出費もかなり慎重な動きを見せていましたが、新年度や春の行楽により宿泊業や運送業、クリーニング業がやや回復傾向となりました。一方で飲食業や理美容業は若

干の苦戦を強いられている回答となっております。来期見通しは26.3ポイント悪化となっておりますが、夏の観光シーズンに入ることから、悪化幅が抑えられることに期待しています。

経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多くなっています。

### 《業界の問題点等》

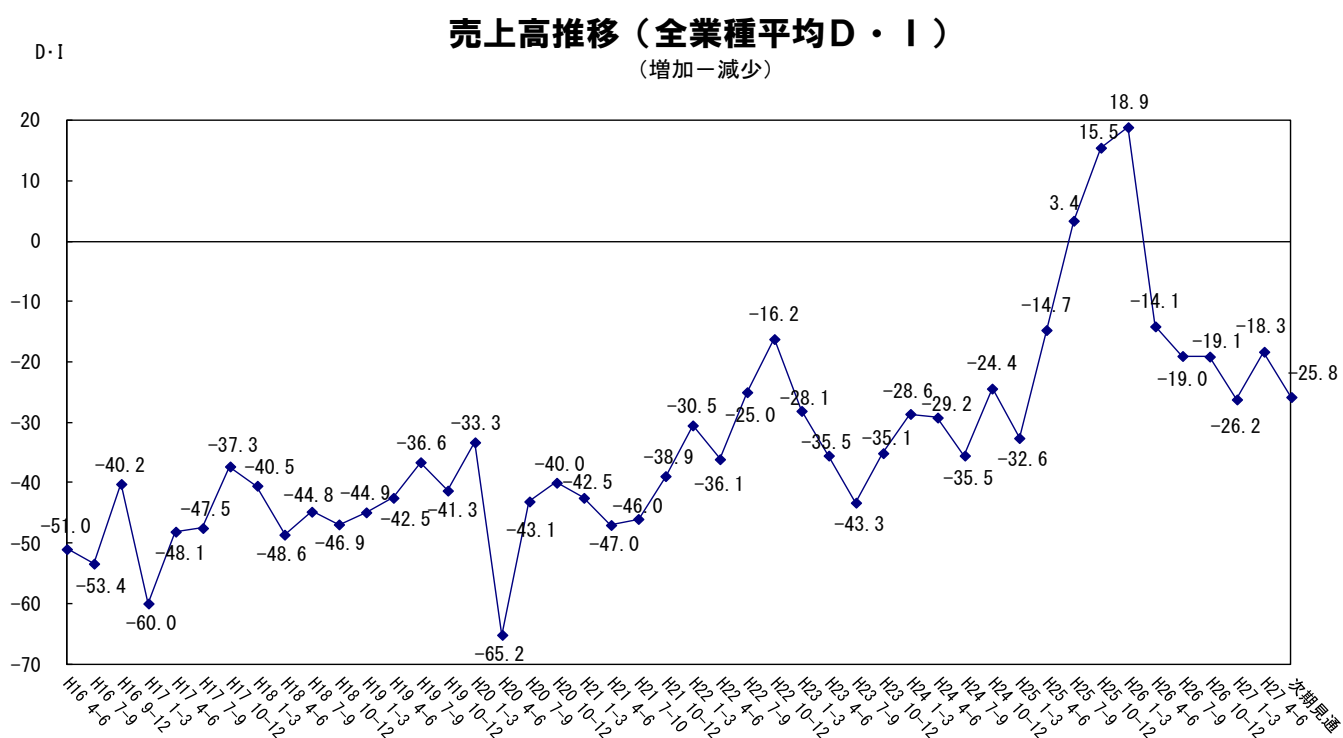
- ・ 損保業界の将来についての不安。メーカー間の競争激化！！（保険業）



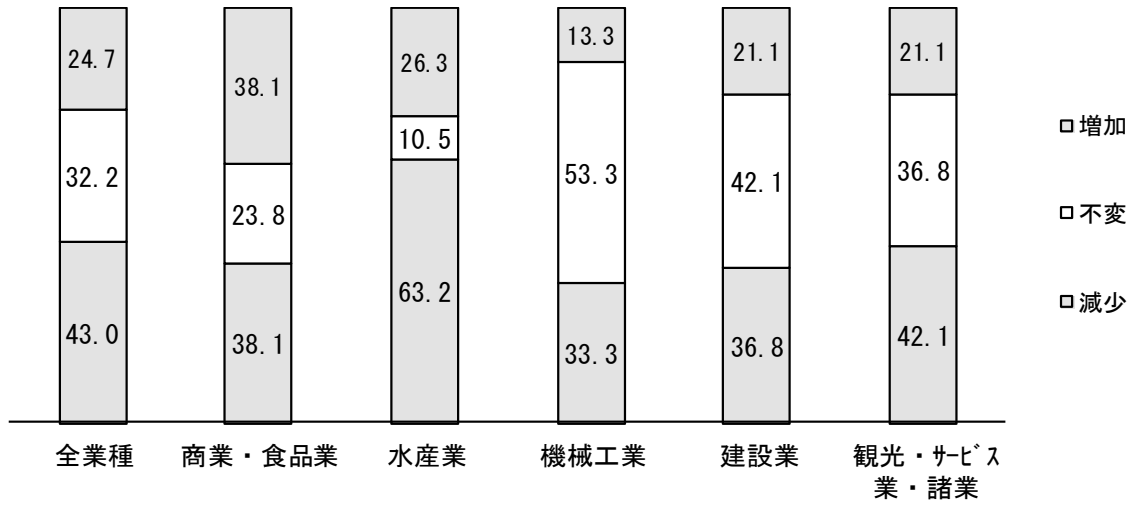
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成26年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



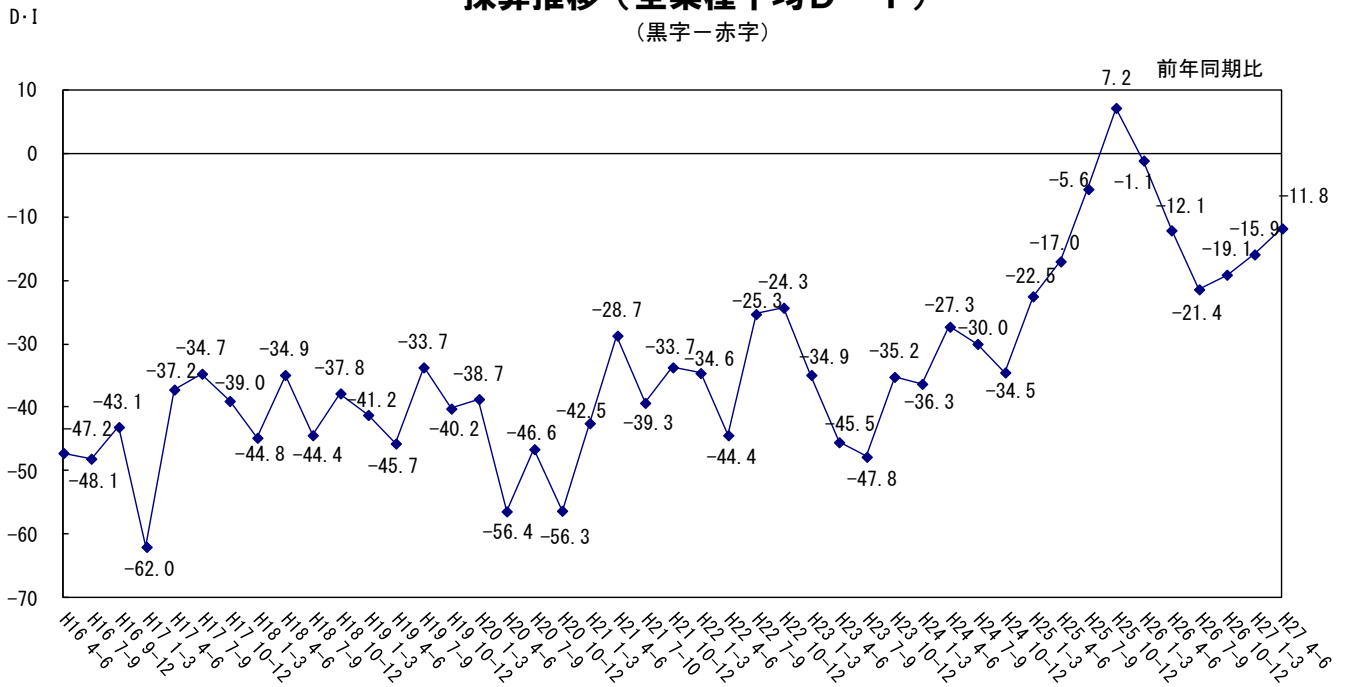
全業種平均でDI値▲18.3〔前年DI値（平成26年4～6月期▲14.7）よりやや悪化〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲16.7→0.0〕、水産業〔前年▲26.1→▲36.8〕  
 機械工業〔前年0.0→▲20.0〕、建設業〔前年4.8→▲15.8〕  
 観光・サービス業〔前年▲33.3→▲21.1〕

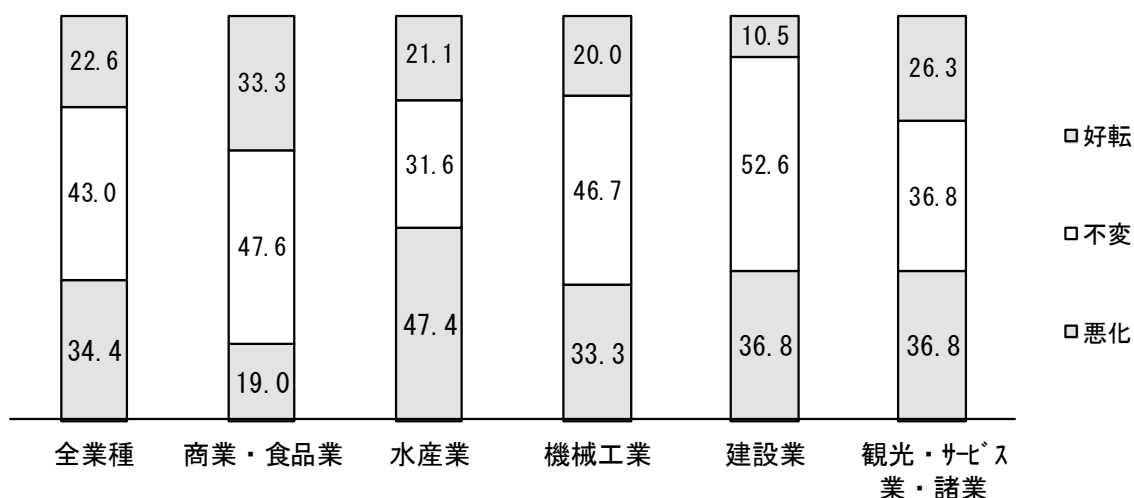
### (2) 今期の採算

【前年同期比】（平成26年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

### 採算推移（全業種平均D・I）



### 今期の採算（前年同期比）

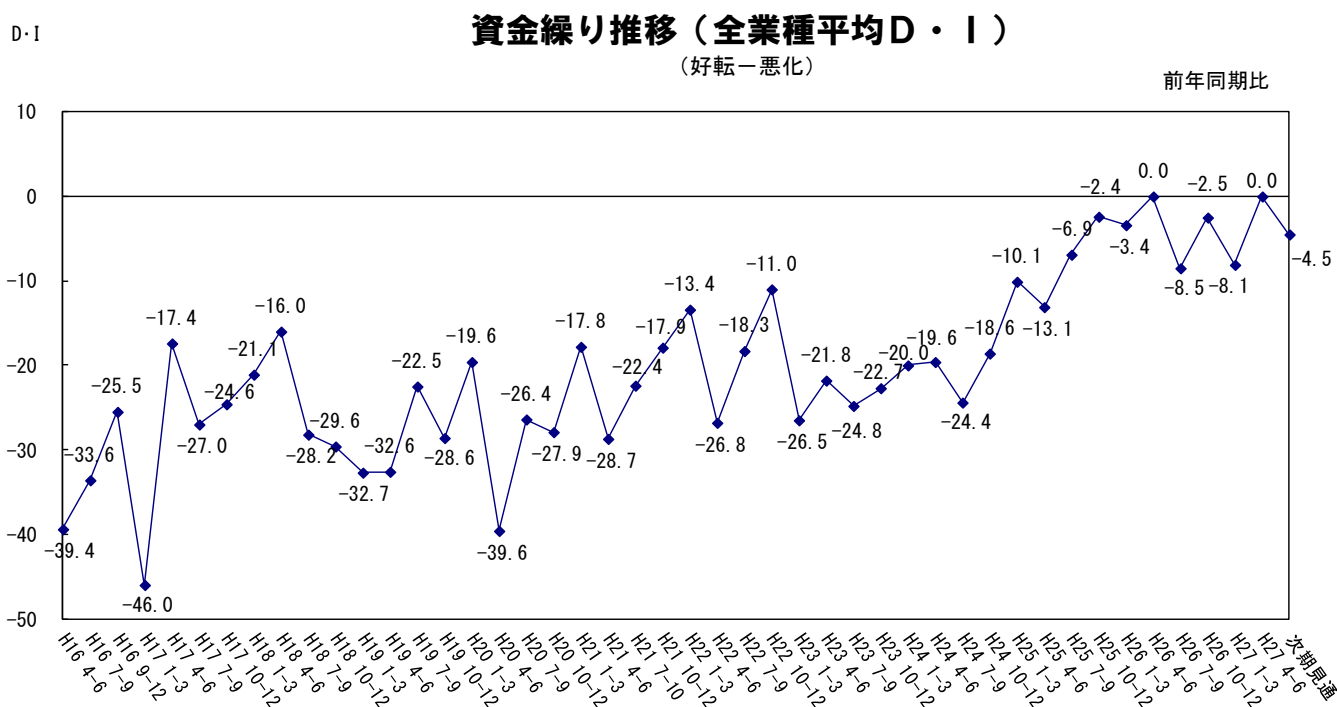


全業種平均でDI値▲11.8〔前年DI値（平成26年4～6月期▲12.1）より0.3ポイントプラス〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲22.2→▲14.3〕、水産業〔前年▲8.7→▲26.3〕  
 機械工業〔前年15.8→▲13.3〕、建設業〔前年▲9.5→▲26.3〕  
 観光・サービス業〔前年▲38.9→▲10.5〕

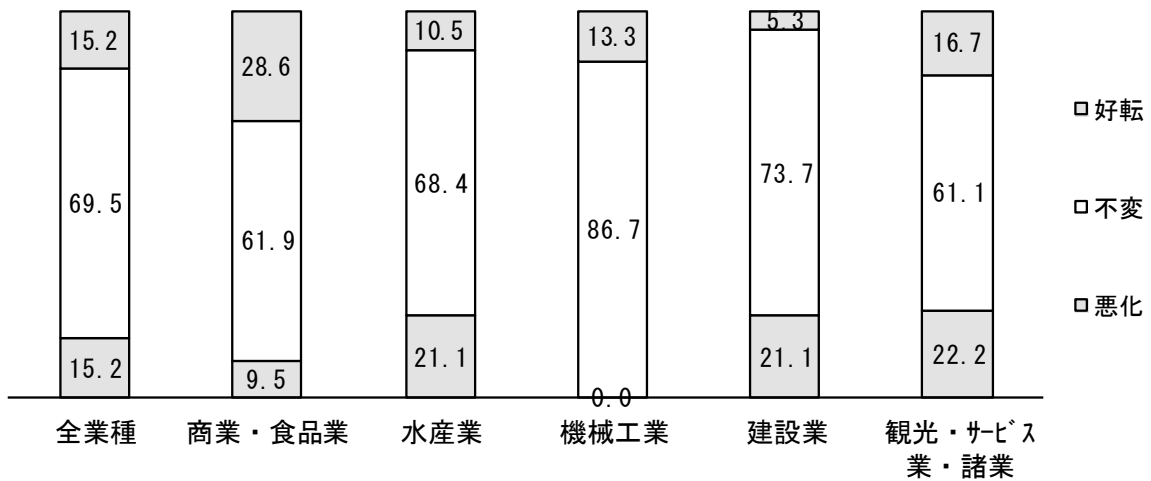
### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成26年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）





### 今期の資金繰り（前年同期比）



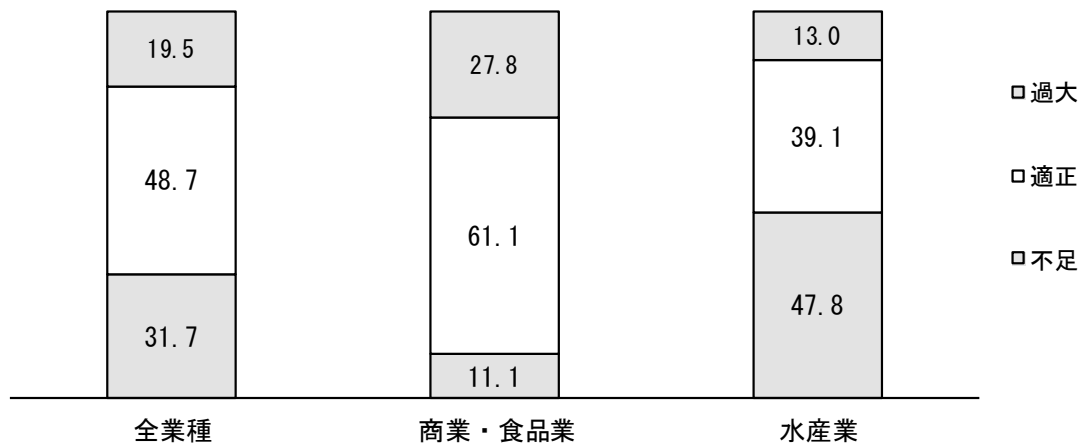
全業種平均でDI値0.0〔前年DI値（平成26年4～6月期△13.1）より13.1ポイントプラス〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→19.0〕、水産業〔前年▲21.7→▲10.5〕  
 機械工業〔前年23.3→13.3〕、建設業〔前年9.5→▲15.8〕  
 観光・サービス業〔前年▲12.5→▲5.6〕

### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成26年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

### 今期の在庫水準（前年同期比）

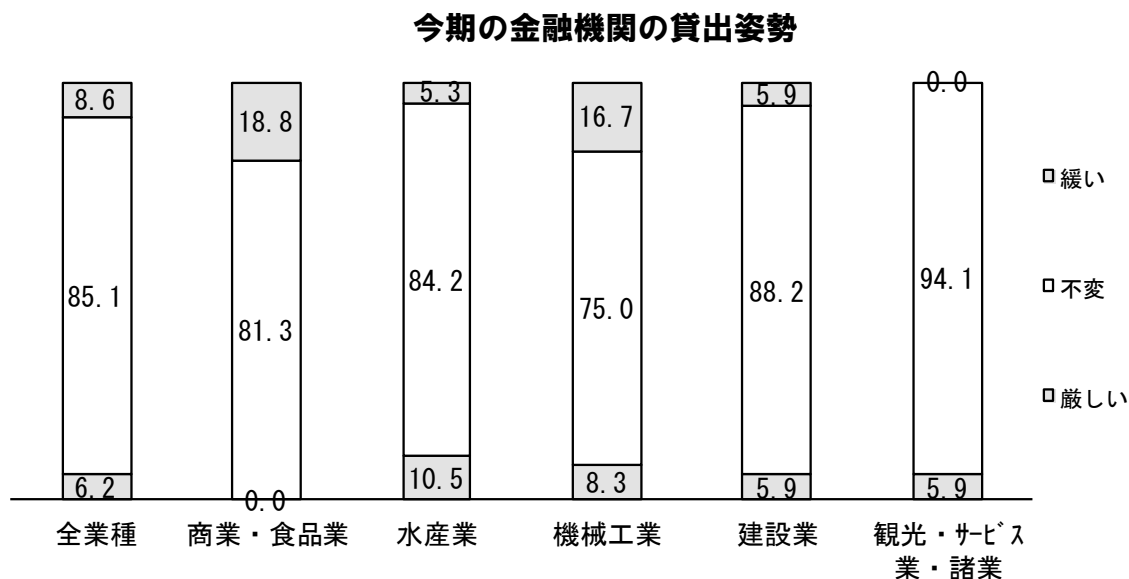


全業種平均でDI値▲18.0〔前年DI値（平成26年4～6月期▲12.2）より5.8ポイント在庫不足〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年16.7→5.0〕、水産業〔前年▲34.8→▲42.1〕

## (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

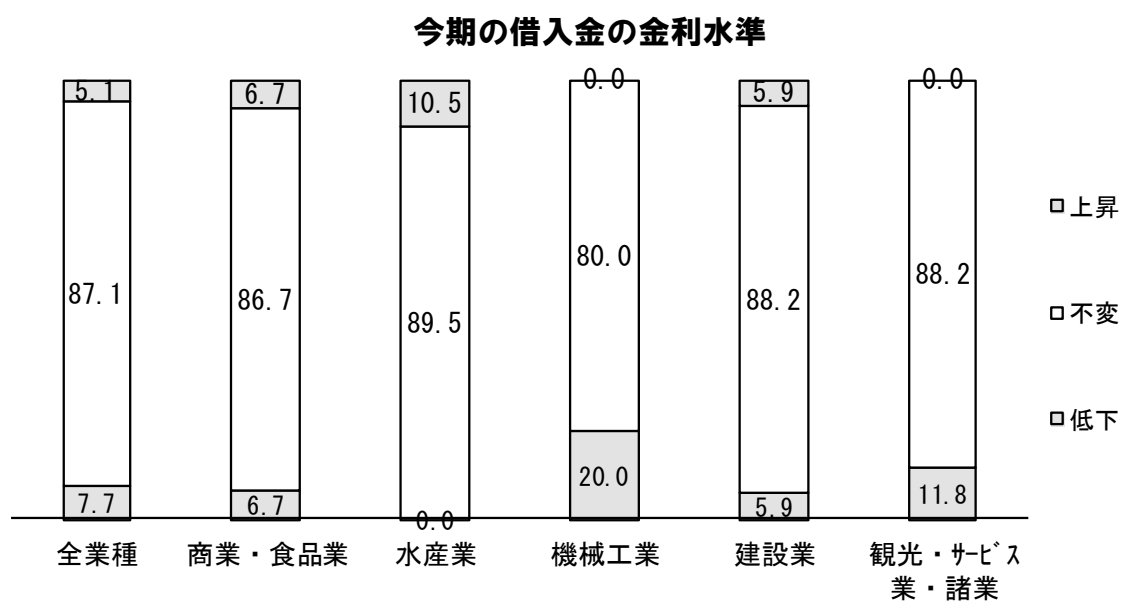
【前年同期比】（平成 26 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均 2.4 ポイント。商業食品業 18.8、水産業▲5.3、機械工業 8.3、建設業 0.0、観光サービス業▲5.9。

## (6) 今期の借入金の金利水準

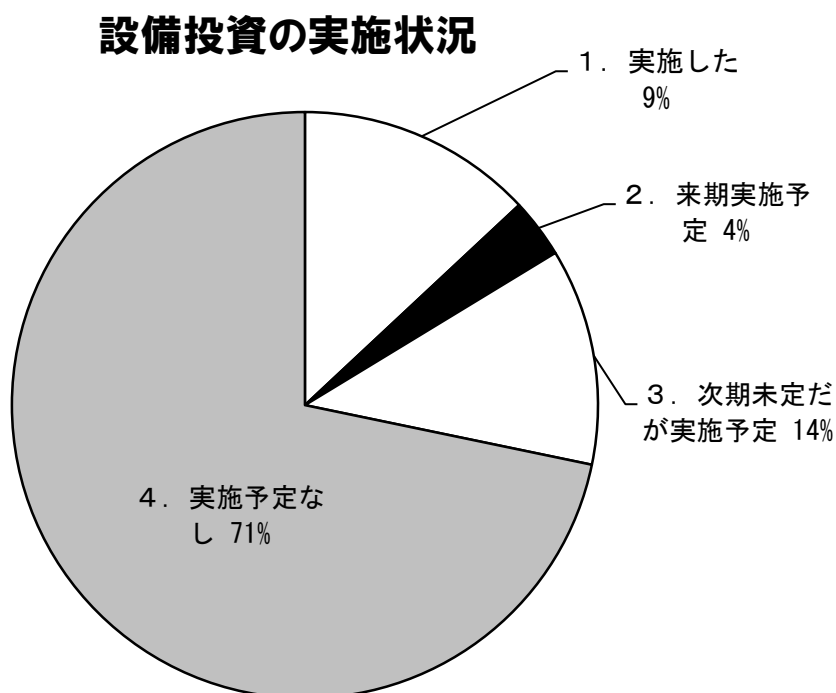
【前年同期比】（平成 26 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲2.6 ポイント。商業食品業 0.0、水産業 10.5、機械工業▲20.0、建設業 0.0、観光サービス業▲11.8。

## (7) 設備投資の実施状況

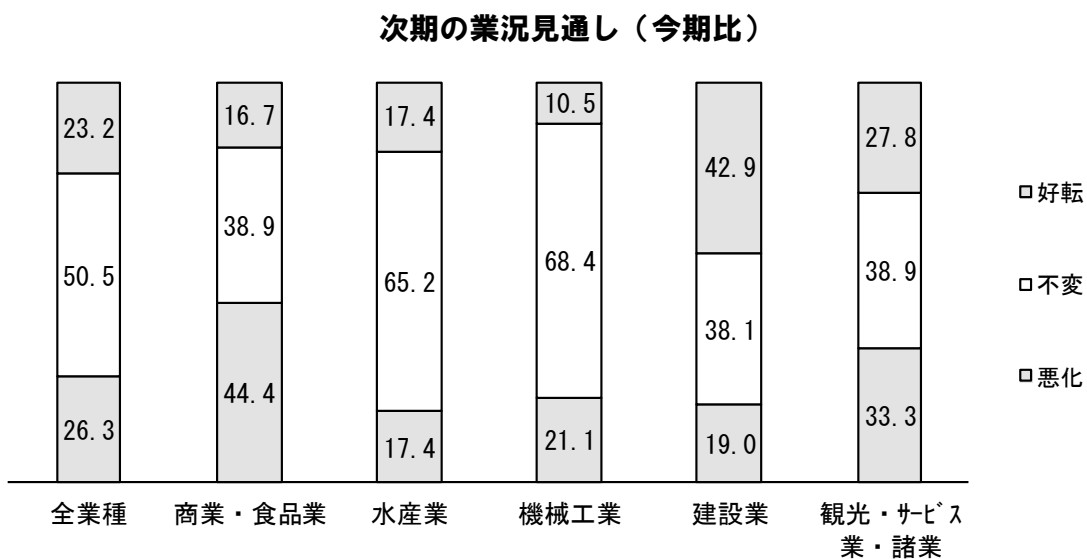
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



## 3. 来期の見通し

### (1) 来期の業況

【今期比】（平成27年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）

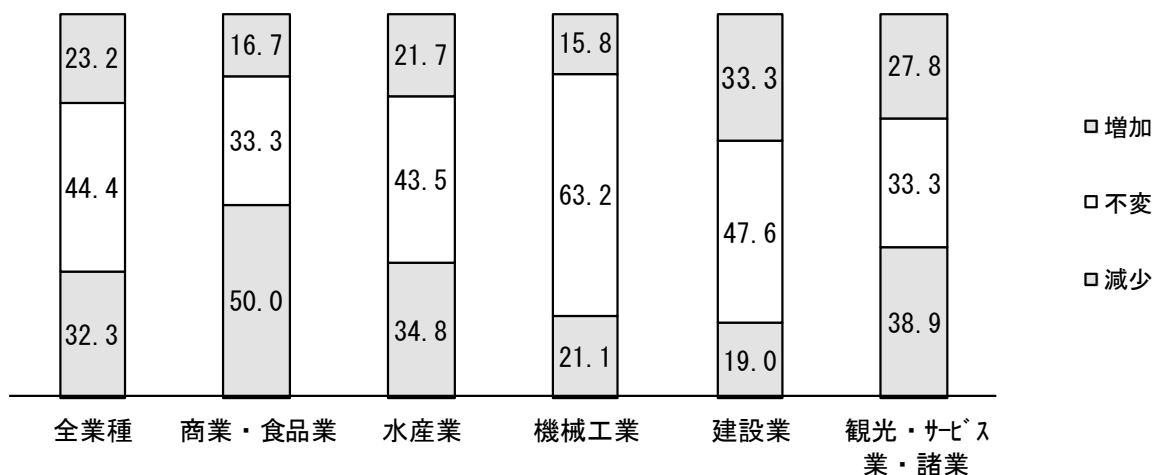


全業種平均DI値▲18.3 [今期の業況（前年同期比▲7.5）より10.8ポイント悪化の見通し]

## (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 27 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

### 次期の売上高・生産高見通し（今期比）

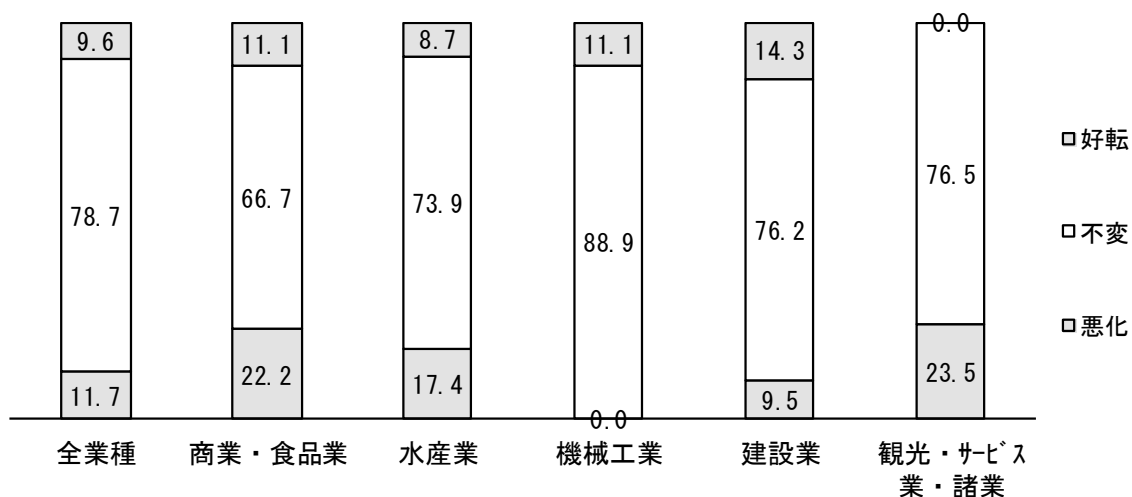


全業種平均 DI 値▲25.8 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲18.3）より 7.5 ポイント悪化の見通し]

## (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 27 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

### 次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 ▲4.5 [今期の資金繰り（前年同期比 0.0）より 4.5 ポイント悪化の見通し]

### Ⅲ. 各 指 標

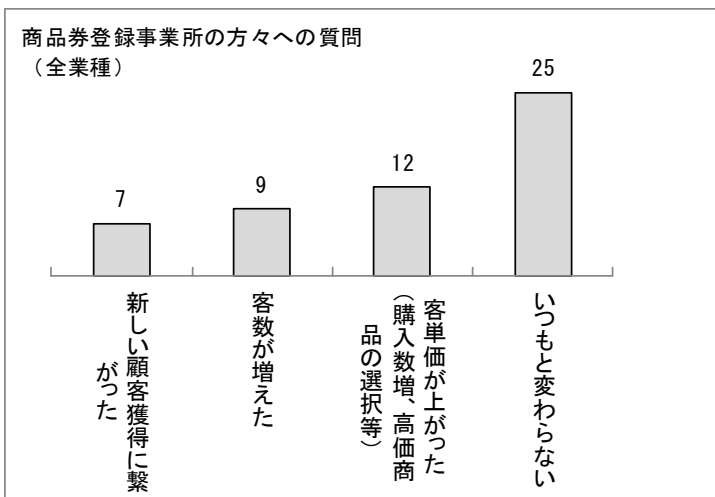
		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サービス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲7.5	23.8	▲26.3	▲20.0	▲15.8	▲5.3
	来期見通し	▲18.3	▲4.8	▲10.5	▲13.3	▲31.6	▲31.6
売上 D・I	今期実績	▲18.3	0.0	▲36.8	▲20.0	▲15.8	▲21.1
	来期見通し	▲25.8	▲4.8	▲31.6	▲13.3	▲36.8	▲42.1
在庫 D・I	今期実績	▲18.0	5.0	▲42.1	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲11.8	14.3	▲26.3	▲13.3	▲26.3	▲10.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	0.0	19.0	▲10.5	13.3	▲15.8	▲5.6
	来期見通し	▲4.5	15.0	▲21.1	13.3	▲16.7	▲15.8
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	2.4	18.8	▲5.3	8.3	0.0	▲5.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲2.6	0.0	10.5	▲20.0	0.0	▲11.8
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

### Ⅳ. もんべつ地域活性化商品券事業について

個人消費の喚起と地元消費の拡大を目指す、「平成27年度国の地方創成事業」である商品券事業について伺いました。本事業は、市内事業所などで共通に使用できる商品券にプレミアム（割増）を付けて発行することにより、地域内の個人消費の喚起と、地元での買い物運動を進めることによって市内での消費を促し、地域経済の振興を図ることを目的とした「もんべつ地域活性化商品券」（20%プレミアム、発行額面2億6000万円）を6月1日より販売開始し、およそ3週間で完売となりました。

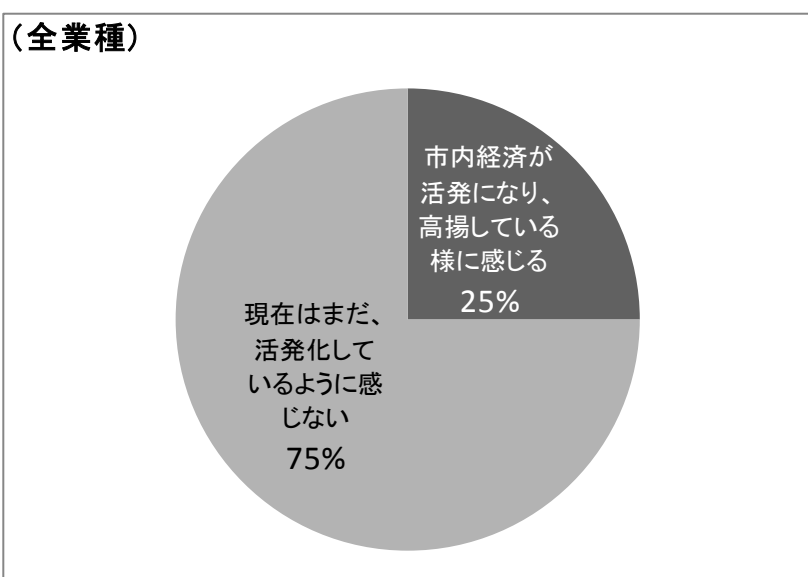
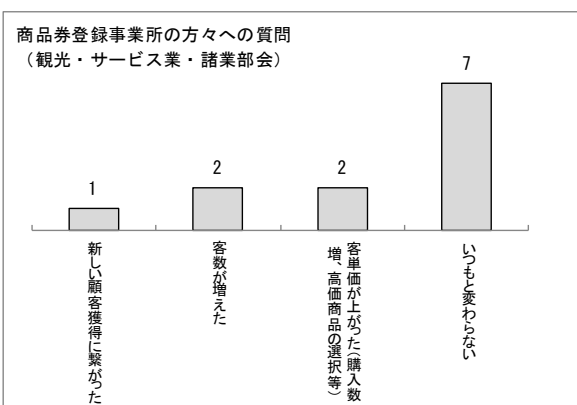
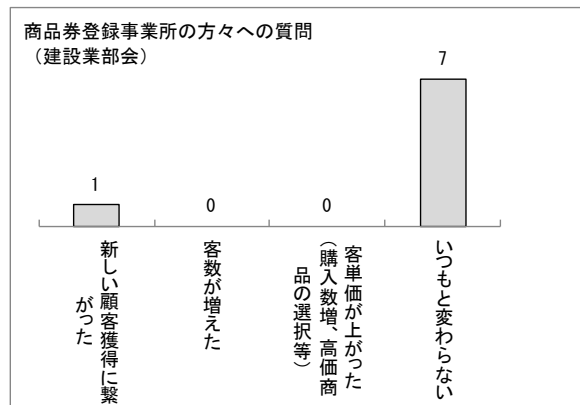
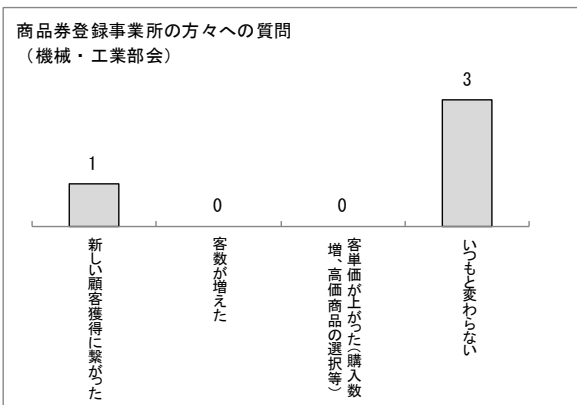
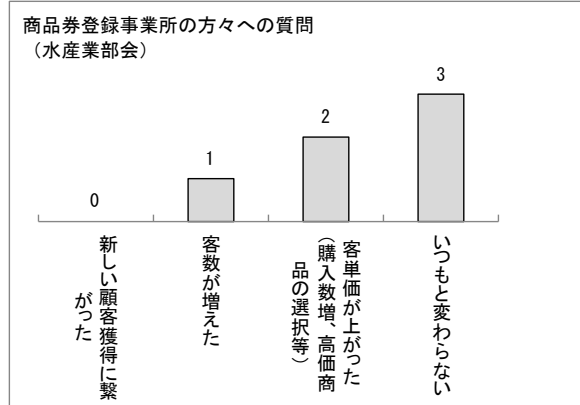
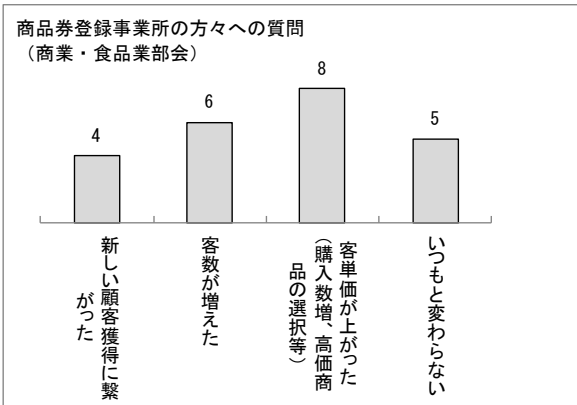
今回の調査では、商品券事業開始から現在までの市内の状況について伺いました。



※複数回答可

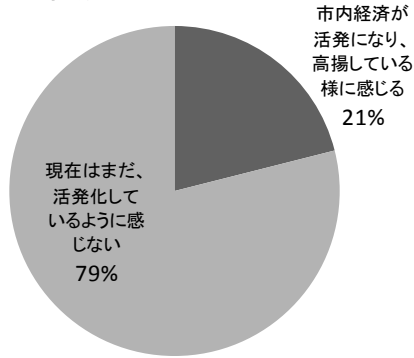
全業種をまとめると、「いつもとかわらない」という回答が多数を占めておりますが、商業・食品業については、新規顧客の獲得や、客数増、客単価の増が他の業種よりも顕著に表れております。

水産業以外の業種についても新規顧客の獲得にも繋がっており、少なからず商品券効果はあったものと思われれます。

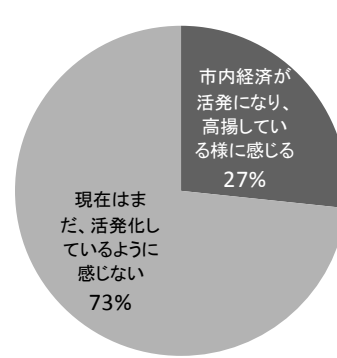


全業種をまとめると、現在のところ「経済が活発になり、高揚しているように感じる」との回答は 25%に留まっており、最も活発感を感じられていないと回答が多くなったのは建設業で、反対に最も活発感を感じているのが「観光・サービス業・諸業」という結果となりました。

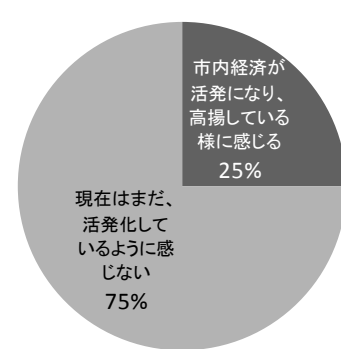
**(商業・食品業部会)**



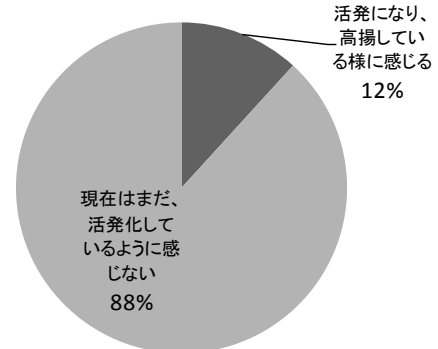
**(水産業部会)**



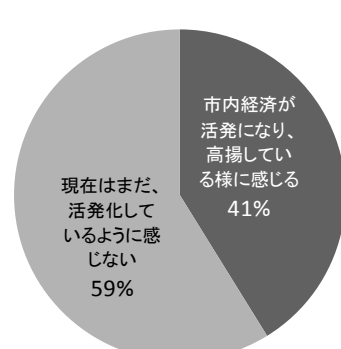
**(機械・工業部会)**



**(建設業部会)**



**(観光・サービス業・諸業部会)**



**【商品券事業に関するその他のご意見】**

- ・告知の方法を工夫する。(生活用品小売業)
- ・前回に比べ客単価が高く、消費意欲が高まった様に思えます。(燃料小売業)
- ・商品券の現金化速やかに！(衣料品小売業)
- ・入金になるまでの資金繰りが問題。赤券と青券にしたのは良かった。当社としては大変恩恵を受けたのですが、市内として見ると他店・他業種にとっては偏ってしまっているのでは。一時的に活性するが、その後冷え込むのではないかと思います。(食料品小売業)
- ・有効に使いました。またの機会を楽しみにしています。(水産加工業)
- ・アイデアのある商品券事業を紋別経済が活発になるように模索して欲しい。(建設業)